

(令和5年度補正) 地域少子化対策重点推進交付金 実施計画書 (市町村分) 個票

自治体名 **松戸市** (都道府県: **千葉県**)
 本事業の担当部局名 **子ども部 子ども未来応援課**

事業メニュー	結婚・妊娠・出産・子育てに温かい社会づくり機運醸成事業					
区分	重点メニュー					
関連事業メニュー	3.2.5 子育て家庭やこどもとの触れ合い体験					
個別事業名	松戸市高校生と乳幼児のふれあい体験事業	新規／継続 (一般財源での実施も含む)	継続			
実施期間	令和6年4月1日	～	令和7年3月31日	事業開始年度	平成 23 年度	
対象経費支出予定額 ※(注)1	977,320				円	
自治体における少子化対策の全体像及びその中での本個別事業の位置付け ※(注)2	(これまでの少子化対策の全体像及びその効果検証から浮かび上がった地域の実情及び課題) ※全事業共通 松戸市は、平成30年から令和4年までの間に、出生数3,450人⇒2,905人、婚姻数 2,373件⇒2,031件、婚姻率4.9%⇒4.2%と全てにおいて減少傾向にある。背景として、未婚化の進展が大きな要因であり、若年層が「出生・子育てがしにくい社会」と認識されていることが課題であると考えられる。 そこで、松戸市の強みである「都心に近く、結婚して子どもを産み・育てながら就業もしやすいまち」といった高いポテンシャルを生かし、各種施策を講じることで、出生率の増加につなげる必要がある。					
	(当年度の少子化対策の全体像及びその中での本個別事業の位置付け) <当年度の少子化対策の全体像> ※全事業共通 過年度に引き続き、子育て世帯をメインとした市民に育児や子育てに必要な情報をわかりやすく提供するため、LINEを利用して情報を一元的に配信する。また、思春期の高校生を対象として、乳幼児とその保護者と直接ふれあう体験を行うことにより、命の大切さや、子育ての楽しさ・大変さを知ったうえで、子どもや家庭を持つことについて考えるきっかけづくりと、将来的な虐待予防を狙う。あわせて、結婚新生活支援事業を実施し、経済的不安から結婚に踏み切れない層に対して補助を行う。 <本個別事業の位置付け> 本事業は思春期の高校生を対象として、乳幼児とその保護者と直接ふれあう体験を行うことにより、命の大切さや、子育ての楽しさ・大変さを知ったうえで、子どもや家庭を持つことについて考えるきっかけづくりと、将来的な虐待予防を狙いとして地域の少子化対策に資する事業である。					
	(過年度の本個別事業で浮かび上がった課題の分析及びそれに対する取組(ステップアップ)) 子ども子育て支援関係者である地域子育て支援拠点のスタッフ等に向けた研修会については、支援拠点が週の大半稼働しており、同じ時間帯にスタッフを集めにくいいため、他研修会とあわせての開催や書面研修等を含めた方法で実施する。					
個別事業の内容 ※(注)3	番号	項目	内容		ステップアップ	KPI設定
	1	生徒と乳幼児親子のふれあい体験の実施	松戸市内の高校と連携し、生後1才半までの乳児の親子が学校に訪問し、高校生とふれあう体験を行う。 主な体験内容としては、赤ちゃんとのふれあいの他、母親(父親)から妊娠中の様子について、母子手帳やエコー写真をみながら話を聞いたり、子どもの様子や子育ての楽しさや大変さを聞いたりする。 体験は特別教室などに1グループ約5～6名の生徒に2～4組の親子、コーディネーターとして市内の子育て支援拠点(おやこDE広場、子育て支援センター)の専門スタッフが入り、双方に充実した体験ができるようなサポートをする。			○
	2	生徒向け講演会の実施	松戸市内の高校の意向に応じ、助産師や保健師による生徒向け講演会を開催する。 命の大切さや子育ての大変さを改めて知ること、子育てへの理解を深めるとともに自分が生まれてきたことに対する感謝の気持ちと周りの家族の思いを考える機会としてもらう。また、お互いの性を尊重することが、自分自身を大切にすることや他人も大切にすることにつながるため、そこから自己肯定感を持つ機会としてもらう。 赤ちゃんの発達や出産、子育てを中心とした内容から、生徒たちに身近な思春期の心と体について理解できる内容とする。また、一般的な赤ちゃんへの理解だけでなく「育てられてきた自分」を振り返り、これから「育てる自分」に対する想像を、ネガティブな経験も含めて生徒が自らのままの気持ちを受け止められる内容とする。			○
3	支援者向け研修会の実施	高校生と乳幼児のふれあい体験事業を推進するため、本市の子ども子育て支援関係者等を対象に研修会を実施する。研修会の実施に際して、他の研修会とあわせて開催することや、オンライン・書面での実施を検討する。 また、研修会の内容としては以下を予定している。 (1)本市の高校生と乳幼児のふれあい体験の目的の説明する。 (2)ふれあい体験の事業内容の紹介を行い、子ども子育て支援関係者等に事例を共有する。		○	○	

4	実施後に事業内容の周知を実施	本事業実施後に市ホームページで事業報告ページを作成し、公開する。 あわせて、市公式LINEで発信を行い、広く事業周知を行う。			
【次年度以降に向けた事業の方向性】					
体験後の生徒・参加保護者アンケートや、講演会後生徒アンケート、支援者向け研修会アンケートに基づき、より充実した事業となるよう内容の検討を行う。生徒と乳幼児親子のふれあい体験は高校のカリキュラムの都合上、学年全体での実施が難しいため、選択クラスを中心に実施していく。					
【事業内容を検討する上で参考とした既存事業】					
なし					
少子化対策全体の重要業績評価指標(KPI)及び定量的成果目標 ※(注)4 ※全事業共通	KPI項目		単位	目標値	現状値
	婚姻率		%	5.5% (令和11年)	4.2% (令和4年)
	出生数		人	5,000人 (令和11年)	2,905人 (令和4年)
参考指標 ※(注)5 ※全事業共通	項目		単位	直近の実績	
	合計特殊出生率			1.10 (令和4年)	
	婚姻件数		件	2,031 (令和4年)	
				4.2 (令和4年)	
個別事業の重要業績評価指標(KPI)及び定量的成果目標 ※(注)6	KPI項目		単位	目標値	現状値
	事業内容番号	項目			
		(アウトプット)			
	1	ふれあい体験参加生徒数	人	120	98 (R6. 1. 15)
	2	事業開催募集高校数に対する希望校数の割合	%	100	40 (R6. 1. 15)
	3	生徒向け講演会参加生徒数	人	600	128 (R4. 11. 17)
	4	支援者研修会参加者数	人	60	45 (R2. 3. 31)
		(アウトカム)			
	1	実際に乳幼児と触れ合って、乳幼児に親しみを感じた生徒の割合	%	100	99.1 (R6. 1. 15)
	2	体験を通し、子育てへのイメージを持つことができた生徒の割合	%	100	98.1 (R6. 1. 15)
	3	体験参加生徒の満足度	%	100	97.2 (R6. 1. 15)
	4	講演から子育てに対する理解が深まった生徒の割合	%	100	96 (R4. 3. 31)
	5	講演から命の大切さを理解し、自分自身や周囲の人々を思いやる気持ちが必要と感じた生徒の割合	%	100	96 (R4. 3. 31)
6	ふれあい体験の目的を理解した支援者の割合	%	80		
他自治体との連携・役割分担の考え方及び具体的方法 ※(注)7	県教育委員会との連携(市内県立高校での実施) 千葉県との連携として「千葉県ホームページでの掲載及び、千葉県で運用している「チーパス・スマイル(スマートフォンアプリ及びウェブサイト)」を活用し、事業の周知を図る。				
民間事業者との連携・役割分担の考え方及び具体的方法 ※(注)8	連携について ・体験実習見守りスタッフ派遣については地域のNPO法人との委託契約を実施。 ・事業を進めるにあたり地域のNPO法人との連携を図り、研修なども実施。 役割分担について 松戸市: 乳幼児の親子の募集広報・日程調整・通知、学校との連携調整。 NPO法人: 体験時に専門の知識を持つ子育て新拠点のスタッフをコーディネーターとして派遣。生徒と乳幼児親子の双方に良い体験を提供する。				

(注)
1「対象経費支出予定額」には、本交付金の対象外経費を除いた対象経費支出予定額(補助率を乗じる前の額)を記入すること。また、金額の根拠となる資料(見積書等)を添付すること。
2「自治体における少子化対策の全体像及びその中での本個別事業の位置付け」には、次の①～③を記載すること。ただし、結婚新生活支援事業において、③は記載不要。
①これまでの少子化対策の全体像及びその効果検証から浮かび上がった地域の実情及び課題
②当年度の少子化対策の全体像及びその中での本個別事業の位置付け
③過年度の本個別事業で浮かび上がった課題の分析及びそれに対する取組(ステップアップ)
3「個別事業の内容」には、本個別事業の具体的内容を記載すること。
※個別事業を次年度以降も自立的に発展させるため、事業内容の末尾に必ず次年度以降に向けた事業の方向性を記載すること(結婚新生活支援事業においては記載不要)。
※事業内容を検討する上で参考とした既存事業があれば、都道府県名又は市町村名、事業名を記載すること(結婚新生活支援事業においては記載不要)。
4「少子化対策全体の重要業績評価指標(KPI)及び定量的成果目標」については、自治体の少子化対策全体のKPI及び定量的成果目標を達成予定時期を含め記載すること。また、各自治体は少なくとも令和6年度終了時点で、各自治体において効果検証を実施すること。
5「参考指標」には、各自治体の合計特殊出生率、婚姻件数、婚姻率を記載すること。
6「個別事業の重要業績評価指標(KPI)及び定量的成果目標」には、自治体における少子化対策の全体像の中での本個別事業の位置付けを踏まえ、KPI及び定量的成果目標を達成予定時期を含め記載すること。また、各自治体において効果検証を実施すること。
※過去に関連する事業を実施している場合は、過去に設定したKPIを踏まえたKPIを設定すること。
※結婚支援センター事業を実施する場合は、参考として直近年度の「会員登録数」「引き合わせ成立者数」「カップル成立組数」「成婚数」を記載すること。
7「他自治体との連携・役割分担の考え方及び具体的方法」には、本個別事業を他の都道府県や市町村と連携のもと実施する場合、その考え方及び具体的方法を記載すること。
8「民間事業者との連携・役割分担の考え方及び具体的方法」には、本個別事業を民間事業者との連携のもと実施する場合、その考え方及び具体的方法を記入すること。

積算内訳書

1. 地方自治体名	千葉県松戸市		
2. 個別事業名	松戸市高校生と乳幼児のふれあい体験事業		
	対象経費支出予定額:	977,320	円

3. 本個別事業に要する費用及びその内訳

No	経費区分	経費区分毎の内訳	総事業費		
			交付対象事業費	交付対象外事業費	
1		1、生徒と乳幼児親子のふれあい体験の実施(小計 849,320円)			
2	需用費	事業用消耗品代=117,000円	117,000	117,000	
3	役務費	エプロンクリーニング代 400円*7枚*4校*1.10=12,320円	12,320	12,320	
4	委託料	一時預かり兼体験実習見守りスタッフ委託料 時給1,800円*3.5時間*4法人*2人*13回=655,200円 時給1,800円*1.5時間*4法人*2人*3回= 64,800円	720,000	720,000	
5		2、生徒向け講演会の実施(小計 96千円) 3、支援者研修会の実施(小計 32千円)			
6	報償費	講師謝礼 30,000円*4回=120,000円 講師交通費 2,000円*4回= 8,000円 (松戸市 令和6年度予算編成要領及び松戸市財務規則の範囲内による)	128,000	128,000	
7					
8		※本交付金の対象外となる経費は含まれていない。			
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
計			977,320	977,320	0

(経費区分ごとの合計)

区分	諸謝金	賃金	報償費	旅費	需用費	役務費
総事業費	0	0	128,000	0	117,000	12,320
交付対象事業費	0	0	128,000	0	117,000	12,320
区分	委託料	使用料及び賃借料	備品購入費	負担金	補助金	計
総事業費	720,000	0	0	0	0	977,320
交付対象事業費	720,000	0	0	0	0	977,320

(参考)上記のうち、セミナー・イベント等開催時の一人当たりコスト

(単位:円、人)

番号	セミナー・イベント名称	所要額(X)※	参加予定人数(Y)	(参考)過去の同セミナー・イベントの人数	一人当たりコスト(X÷Y)
1	生徒と乳幼児親子のふれあい体験	849,320	120	98	7,078
2	生徒向け講演会	96,000	600	128	160
3	支援者研修会	32,000	60	41	533

※自治体間連携で事業を実施する場合は、総額の所要額を入力すること。